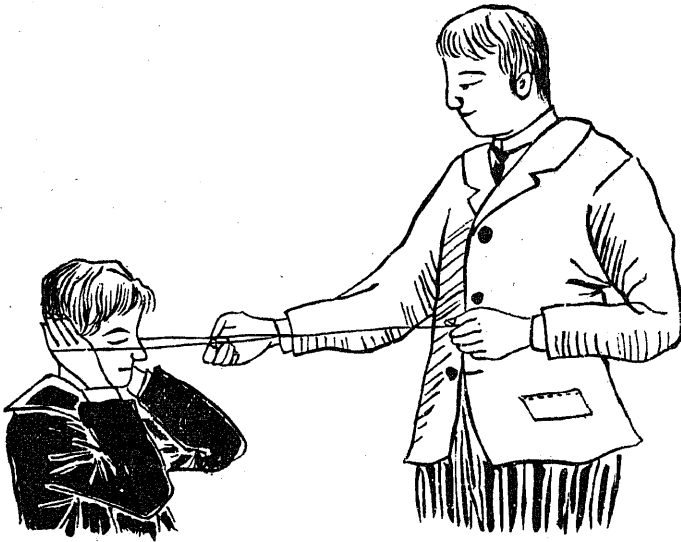


みとなるべし。



栗鼠退治

雨情

毎夜々々裏庭の葡萄棚へ来て、漸く色がついて来ます葡萄の實を滅茶く〜に荒して仕舞ふ栗鼠がわかりました。

である時此家の太郎と言ふ腕白盛りの少年が秘に考へました。折角紫色にみづ〜と葡萄が實つて来ると、栗鼠の畜生奴が来て皆な喰つて仕舞いやアがる、何麼かして仇を取つて遣りたいものだとか種々工夫を廻らしました末、とう〜栗鼠退治と決意いたしました。中々栗鼠は惻怍な動物だから、到底一人では甘く行かんから、誰かも一人加勢を頼みたいもんだと考へて居ります所へ、細い麻の糸がズル〜遣つて来まして。

「太郎さん〜何にを考へて居るんです?。」

と出し抜けに言ひますから、見ますると麻糸なの
で太郎も大に吃驚いたしました。

「こら〜お前は麻糸ぢや無いか、何に用があつ
て此處へ參つたのだ？」

「へい〜私は麻糸で御座います、貴方様の風の
糸で御座います。少々御願があつて態々参りまし
た。」

「何に、お願があつて來たと、何んな願だか言つ
て見ろ。」

「イエ他でも御座いせんが貴方様に加勢をして
栗鼠をひとつ退治しやうと思ひまして参りました
「何んだと、栗鼠退治の加勢をしたいと言ふなの
か？」

「左様で御座います。」

「栗鼠退治の加勢はともお前のやうな者には出

來んから駄目だ。

「イヤ、さうでも御座いませうが、却つて私こそ
栗鼠退治には適當だらうと思ひましたので参つた
ので御座います。」

「どんな好い工夫があつて適當だと言ふんだい。」

「それは先づ私が葡萄棚の上に登つて居るんです
そして栗鼠が來ましたならば、栗鼠の身体を幾重
にも解けぬやうに拗んで了ふです、所で栗鼠が逃
げる事も隠れる事も出來ずにまご〜して居りま
す所を、貴方様が棒か何にかを以て叩き殺せば、
首尾克く栗鼠退治が出来るだらうと思はれます。
「これは好い工夫だ、ちや栗鼠退治の加勢をお前
に頼むから、今夜一つためして見やうぢや無いか
「宜しう御座います、私が背の内から葡萄棚へ登
つて居りますから、貴方様は木の陰か何にかの陰

へ隠れて見て居て下さる。

「よし、然し逃げられんやうに確り捕へて居て呉れないと不可ぜ。

『承知致しましたと。』麻糸は歸つて仕舞いました太郎は最栗鼠の首でも取つたやうに喜んで居ります。

さうする内に日も段々暮れて夕方となりましたから、裏庭の楠の陰へ隠れて夜の更けるのを待つて居りました。

夜は段々に更けて、はうぼらの家で寝て仕舞つた頃になると、葡萄棚の上でガサ／＼と葉音が始まりました。

すると。
「太郎さん／＼しめた／＼。」と言ひますから、
「それッ迷がすなッ。」

と太郎は急いで葡萄棚の上へ登つて見ますと案の定、大きな栗鼠が麻糸にぐる／＼拗められて居りますから歡び半分、力まかせに撲りつけてとう／＼殺して仕舞いました。

麻糸の加勢を受けてこゝに首尾克く太郎は栗鼠退治が出来ましたのですとさ、めでたし／＼。

●前號懸賞問答當選

當選(賞品) ろびんせんくるそー

一冊

東京神田淡路町二ノ三山本方 花岡 秀隆

- (一) 一つの役所をくやく所(區役所)といふが如し
- (二) あかるくつても ふはくらしニ(大藏省)といふが如し
- (三) 澤山の俸給を取つてもしよー(少將)といふが如し